

教育・保育目標	あふれる笑顔、つながる心、たくましく育つわかば
重点目標	人とのつながりを大切に、心も体もたくましさを持った笑顔のあふれる子どもを育成する

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上 保育の実践	学びを大切に 遊び環境	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回職員研修を行い、保育実践を共有し、主体性を育む保育について共通認識ができるよう教育保育の可視化をしながら学び合う。 ・月1回以上、会議（乳児・幼児・乳幼児リーダー）を行い、保育内容について話し合う。 ・子どもが自ら遊び出し、遊び込むことができる環境作りを行う。 ・自園の実態に応じた教育課程の編成ができるように、期ごとに1回教育課程の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、「子どもは楽しく園生活を送っている。」「こども園は、子どもの発達や興味関心に応じた保育を行い、子どもの意欲や主体性が育まれるように努めている。」と回答した割合がそれぞれ75%以上になる。 ・子どもの育ちや学びを読み取り、主体性を大切に保育展開が計画的に行える。 ・自園の実態に応じた教育課程を、各学年及び全職員で編成や見直しをした上での教育保育を行える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、「子どもは楽しく園生活を送っている。」「こども園は、子どもの発達や興味関心に応じた保育を行い、子どもの意欲や主体性が育まれるように努めている。」と肯定的に回答した割合が95%以上であった。 ・月1回以上、乳児会議と幼児会議を行うことができた。乳幼児リーダー会議については、月1回以上行うことは難しかったが、年間4回程行うことができた。 ・各クラス、年に2回程度、保育室環境についての記録写真を用いて構成の意図や育ちの願いなどについて語り、それを元に全職員で話し合い、今後の保育について学び合うことができた。教育課程の見直しについては計画通りに行えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児リーダー会議については、会議の持ち方を検討し直す。会議開催が難しい際にも、口頭や紙面伝達を行い、それぞれの保育の意図を共通理解することで、主体的に遊ぶことのできる子どもが育てられるようにする。 ・教育課程については、今後も子どもの実態に即した教育保育を行えるよう、継続して見直しを図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児リーダー会議が思い通りに開催できなかった事は残念だが、乳児と幼児会議が充実して行われているようで、更なる前進を期待します。 ・リーダー会議の開催方法については工夫が必要かと思われます。
	自然環境の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭に植物や生き物が育ちやすくなるよう、植物の種まきや移植、追肥、虫の生息する環境づくりなど、年間を通した土づくりのサイクルの年間計画を作成し、検討、実施する。 ・子どもがビオトープの生き物に興味関心が持てるよう、子どもとともに放流し、生長の様子を確認していく。 ・野菜や植物の生長過程に関心をもてるような表示を作成し、生長過程を確認する様子を見られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自ら、葉や花、枝や枯葉等の植物を使って遊びに取り入れたり、生き物を見つけて関わったりする等、自然とふれあう姿が見られる。 ・保護者アンケートにおいて、「こども園は、子どもの豊かな感性を育むための自然環境を工夫して整えている。」と回答した割合が80%以上になる。 ・季節に応じた野菜の種まきや苗植え、収穫が計画的に行える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで90%以上の肯定的な回答があり、豊かな感性を育む自然環境を工夫し、整えていると評価された。 ・土づくりや虫の生息する環境づくりなどを実施することが出来、子どもが虫捕りや自然物を使った遊びを楽しむ姿が多く見られた。 ・ビオトープに子どもたちとメダカを放流したことで興味関心をもっていった。持続していくことが課題である。 ・季節ごとに野菜や植物を栽培し生長過程を楽しむ姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も意図的に雑草を残す場所を作ったり草花を養生するエリアを作ったりする等、自然豊かな環境づくりを工夫していく。 ・担当者が率先してビオトープの情報を発信し、どの職員も理解が持てるよう提示する。 ・時期を逃さずに植・栽培物を植えるよう計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープは他園では見られないもので、子ども達にとってとても大切な環境だと思います。忙しい職員の方々が子ども達の為に奮闘されていることに敬意を表します。
豊かな心・健やかな体	互いのよさを認め合う保育	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが、自分大切にされていると感じられるよう、一人一人に愛情深くかわかる。 ・自尊感情が高まるよう、個々のよさを大切に、子どもの気持ちや考え、行動等を尊重した保育を実践する。 ・異年齢、同年齢等、様々な関係性で交流できる場を整え、関わりがもてるようにしていく。 ・クラスや学年での会議や、職員会議を月1回以上行い、人権尊重の視点での子どもの育ちや、保育について話し合う。 ・人権に関する園内研修、保護者研修をそれぞれ年1回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、①「保育者は、子どもに愛情深くかわっている。」②「こども園は、子どもに自分を大切にすることや、他人への思いやりが育まれるよう教育・保育に取り組んでいる。」と回答した割合がそれぞれ80%以上になる。 ・異年齢、同年齢等、様々な関係性で遊んだり過ごしたりする姿が見られ、関わり合いの中で相手を肯定的に捉えている言葉や行動が多く見られる。 ・個々の子どもの育ちについて職員間で情報共有を行い、保育計画の見直しとよりよい実践が行える。 ・保育者自身の道徳性を常に振り返り、人権意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートで①98%、②94%の肯定的な回答があり、子どもに愛情深く関わり、個々の良さを大切にしていると評価された。 ・交流が多くできるよう、クラス担任が連携して共有の遊びの場や、学年を超えた関わり合いの機会等を設けたことで、子ども同士が自ら関わって遊び、肯定的な言葉や行動が見られた。 ・クラス・学年会議、乳児会議や幼児会議、職員会議で子どもの情報を共有し、関わり方や保育計画の見直しを行った。 ・全職員が人権研修に参加し、個の育ちや保育を語り合う中で、道徳性、人権意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きの中で子どもの様子を語り合い、情報を共有し、適時、保育教育計画の見直しを行う。 ・子ども同士の関わり合いを保育者間で共有し、意図的に異年齢交流の機会を設けることで関わりが広がるようにする。 ・今後も、人権意識をもって保育を振り返る機会をもち、職員の人権感覚をさらに磨いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの評価も高く、職員の方々が日々努力された結果と思います。 ・コロナ禍で地域の者が接する機会が少ない中、褒めてもらえる機会も減り、自尊心の育成や思いやりの心を育むためにはご苦労されたと思います。 ・保・幼・小連携の一環として、授業参観および保育参観を行い、子ども理解につなげていきたいです。
	健康な心と体を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・給食で提供する食材に興味をもてるよう、栽培活動や季節に合わせて旬の食材に関する掲示と、日々の献立を掲示する。 ・生活習慣を意識したり自らの健康や心身に関心をもったりできるよう、絵本や視覚教材等の環境を作る。 ・「ほけんの話」など保健指導を、季節や発達段階を考慮し、計画的に年4回以上行う。 ・子どもが自ら体を動かして遊びたいよう、室内外の環境や教材・遊具を工夫しながら活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、「子どもは、こども園の給食を楽しみにしている。」と回答した割合が60%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「保育者は、子どもの基本的な生活習慣が身に付くように、個々に応じて関わっている。」「子どもは、こども園での遊びを通して体を動かして遊ぶことが好きになったと感じる。」と回答した割合がそれぞれ75%以上になる。 ・保健、栽培、給食等、各担当職員間で連携を取り、健康や食育に関する教材作成や指導を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて「こども園の給食を楽しみにしている。」と肯定的に回答した割合が85%以上であった。 ・保護者アンケートで「基本的な生活習慣」「体を動かして遊ぶ」項目それぞれ95%以上の肯定的な回答があり、一定評価された。 ・養護教諭からの「ほけんの話」を定期的年4回以上行えた。 ・栽培活動や季節に合う食材の提供を行った。また給食に興味をもてるよう、日々の献立をランチルームに掲示した。旬の食材の掲示は各クラス任せになった。 ・発達段階に合わせて各学年で体を動かして遊びたいよう環境を室内外に工夫して構成し、活用出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の掲示に関しては、掲示する内容、場所等担当者間で話し合いの機会を定期的にもち、計画していく。 ・日々の掲示だけでは発達段階的に給食内容に興味をもてない場合があったので、より丁寧に口頭等で伝えていく等、さらなる工夫を検討して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して健康な心と体を育む事は、子ども園にとって最大の役割と考えます。まずは食に重点を置き、興味を引き出す工夫など、職員の方の努力が感じられます。
開かれ信頼される学校園 園運営の推進	危機管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児、与薬対応マニュアル、避難訓練マニュアルと年間計画を作成し、全職員で共通理解し、変更時は迅速に共通認識を行う。 ・年度当初にリスクマップを作成する。また、月に2回、複数職員で安全点検を実施し、危険箇所発見時は全職員に周知し、速やかに改善する。 ・一斉メールを活用し、緊急時に子どもを保護者へ引渡し訓練を年1回行う。 ・日常の保育の中で安全管理について職員で話し合い、発達段階に応じた指導を適時行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児には毎日、職員間で成分表を確認し、個々の状態に即して提供できるようにする。 ・月1回、火災や地震等を想定した避難訓練を実施し、反省や課題を踏まえ、その都度マニュアルや計画を見直ししていく。 ・園の生活環境に潜むリスクについて共通認識し、破損や危険箇所の改善が迅速に対応できる。 ・保護者アンケートにおいて、「こども園は、災害等の発生に備えた避難訓練や施設・遊具等の安全点検を定期的に実施し、子どもの安全に関して適切な対応を図っている。」と回答した割合が80%以上になる。 ・発達段階に応じて安全な過ごし方や遊び方が身につくようになる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル通り遂行できたが、アレルギー児に対してクラスを超えた共通理解が不十分な事があった。 ・避難訓練は、毎月最低1回は会議等で反省し、マニュアル検討も行った。また、前月の反省を活かしたり、様々な非常時を想定したりして取り組めた。引渡し訓練も実施できた。 ・月2回の安全点検で担当が修繕できるものは行った。大規模な修繕箇所は報告し、全職員に共通理解できるようにした。 ・保護者アンケートで98%以上の肯定的な回答があり、子どもにとって安全な過ごし方が発達段階に応じていると評価された。 ・年齢や個々の発達段階に応じて安全指導に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー児の配膳を土曜保育など担任以外の保育者が行う際は、事前にクラス担任から発信する。 ・避難訓練や安全点検での反省や修繕箇所の報告などは引き続き会議や文言などで伝達し共通理解を図る。 ・google 使用に同意されながらも登録が未実施の保護者に対して個別にサポートし、緊急時に活用できるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防による休園や学級閉鎖時には迅速に保護者に情報を提供し、一定の理解を得たいと思います。 ・南海トラフ地震への備えが叫ばれる中、安全に避難させることは至難の業と思います。避難訓練・安全点検・アレルギー対応など課題は多くありますが、保護者との情報共有に努めることも重要と考えます。
	園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回クラスだより、連絡帳、写真掲示等を用いて教育保育の可視化を図る。 ・月4回以上ホームページを更新したり、地域の回覧を活用したりして、日頃の様子や、職員研修など園の情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、「こども園は、こども園の情報を園だよりやクラスだより、連絡帳、写真掲示、ホームページ等を通じてわかりやすく保護者に伝えている。」「わかばこども園ガイドで知らせている教育・保育目標は適切である。」と回答した割合がそれぞれ80%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれも90%以上の評価があり、一定評価された。 ・月4回ホームページの計画的な更新や、個人への遊びの様子報告も継続的に実施できた。職員研修の情報は数回、保護者に発信した。 ・地域の回覧を活用した情報開示は実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き教育保育の可視化を工夫して取り組み、わかばこども園の教育保育内容を保護者に知らせていく。 ・より多くの地域住民にも園情報を発信する為の方策を具体的に検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園と保護者間における双方向での情報のやり取りを増やすと、地域の回覧の活用をお願いします。
	子育ての支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者対象の保育参観を2ヶ月に1回以上、学級懇談会を学期に1回、個人懇談会を年2回実施する。 ・保護者や地域の子育て家庭を対象に育児相談を適時、実施する。 ・地域の子育て家庭を対象の園庭開放や施設見学を行う。また、感染対策を徹底し、園庭開放を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観、学級懇談会に7割以上の保護者が参加する。 ・保護者アンケートにおいて、「こども園は、『子どもが心身ともに健やかに成長してほしい』という保護者の願いに応えている。」と回答した割合が80%以上になる。 ・施設見学やオープンスクールの参加人数がそれぞれ100名を超える。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・参観と懇談については、コロナ禍により、一度しか実施できなかったが、保育の様子や学びを玄関掲示やホームページ掲載を行った。 ・保護者アンケートで80%以上の評価があり、一定評価された。 ・園庭開放はコロナ禍により、実施できていない。施設見学については、短時間で人数制限をしながら実施し、目標を達成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観や懇談のあり方やそれらに代わる方法を模索し工夫しながら行っていく。 ・園庭開放については、コロナ禍で可能な方法をむっくむっくルームの担当と相談し検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校と連携した更なる保・幼・小連携の推進を望みます。（お互いに無理のない範囲で） ・コロナで園と地域の交流が減る等、残念な一年間でした。
にじいろ保育拠点園の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・にじいろ広場を年齢別に開催し、小集団で体を動かす遊び等を通して一人一人の発達への支援を図る。 ・にじいろ保育の拠点園として、保護者支援を含むインクルーシブ教育・保育情報整理や推進と情報発信をする。 ・園における個別の支援に加え、必要に応じて専門機関や外部機関との連携を図る。 ・インクルーシブ教育について職員研修を行い、専門性を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・にじいろ広場を年齢別開催し、参加する子どもが各回10名以上となる。 ・拠点園として大型遊具などの貸し出しリストを作成し、ブロック内の園に大型遊具、教材、本の貸し出しが行える。 ・各園が参考にしあえるように、それぞれが行っている保護者支援の方法を共有し、リスト化を行う。 ・年に1回の研修を計画し、実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・にじいろ広場は3歳児と4、5歳児の開催日を分けることで発達段階に応じた内容とすることができた。3歳児は絶対数が少ないため参加者は10名には満たないものの、全体で捉えると高い参加率であった。 ・大型遊具は貸し出しリストを作成し、貸し出せる状態になっているものの、まだ貸し出しの利用は無い。 ・保護者研修、各園での保護者支援の共有は、コロナ禍において機会自体を設けられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、個々の発達支援を図れるよう、にじいろ広場の年間の反省等を活かしていく。 ・保護者やブロック内の就学前施設へ視覚的な情報を発信する、支援方法をリスト化する等、さらに工夫し役割を果たしていく。 ・各大型遊具を使う効果について、リストに説明を加え、HP等を用いて周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現場での確認が出来ず、ホームページ上での状況確認となりましたが、いろいろと工夫されていることが分かりました。 	

学校関係者評価総括

- ・今年度もコロナに振り回された1年でしたが、そのような環境の中で「やれることをやる」との意気込みが感じられ、来年度に期待したいと考えます。
- ・保護者アンケートにおいて、「こどもは楽しく園生活を送っている。」「こども園は、子どもの発達や興味関心に応じた保育を行い、こどもの意欲や主体性が育まれるように努めている。」の肯定的回答が95%以上であったことは素晴らしい。園長のビジョンが職員にしっかり浸透している証であると思います。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・コロナ禍により制限していた拠点園の活動内容（保育実践の推進と公開、小学校との接続推進と情報発信、インクルーシブ教育保育推進）を工夫して実施していく。
- ・職員間の連携と学び合いの組織体の強化を次年度も継続していく。

自己評価の基準 A：目標を上回った B：目標どおりに達成できた C：目標をやや下回った D：目標を大きく下回った